

配電視聴覚教育 システムの開発

パソコンで配電マン早期育成

1 開発の背景

高度情報化の進展に伴い、配電業務の内容も複雑多岐にわたる傾向にあり、正確・迅速な業務遂行のため、数多くの基本業務の理解が必要である。

一方現場では、青年層を多く抱え、基本知識の教育に努力しているが、次の問題がある。

- (1) マニュアルを「読んで理解する」教育体系では実効が上がりにくい。
 - (2) 基本業務は、基準・規程・要領に書かれているが、具体例を含めた説明が少ない。
 - (3) 現場のOJTだけでは、時間的制約がある。
- これらの問題解決の一方法として、「配電視聴覚教育システム」を開発した。

配電部では、青年層ならびに新任者の資質向上・早期育成をねらいとした社内教育用CAI「配電視聴覚教育システム」を開発した。このシステムは、設置済みパソコンにレーザーディスク・タッチパネル等を付加し、学習者のレベルに合わせて「見て→聴いて→考え→触れる」反復学習が可能なものである。現在、全特級営業所(33カ所)に配備し、青年層向け教育に活用している。

2 システムの概要

(1) 機器構成

機器構成は、パソコンにレーザーディスク・タッチパネル・アンプ・ヘッドホンを付加し、パソコンを一般業務と視聴覚教育の両方で有効活用できるようにした。(第1図)

(2) ソフトウェア内容

教育教材は、青年層の多い設計部門業務を主体に、61年度分は「支持物強度計算」を始め8本を開発した。62年度分は動画(ビデオ画面)システムを含め6本を開発する予定である。

(3) ソフトウェアの特徴

- ① コンピュータグラフィックスによる静止画・動画と音声で業務の基本的な事項を説明した。
- ② パソコンに不慣れな人でも簡単に

操作出来るよう、画面上部にガイドラインをもうけた。

- ③ 難しい業務内容を早く理解できるように、アニメーションを多く取り入れた。(第2図)
- ④ 学習進行操作は、画面タッチのみとした。
- ⑤ 学習中分からない用語がでた場合、ワンタッチで補足説明画面が呼び出せるようにした。
- ⑥ 確認テスト・例題演習により、学習者の理解度を評価できるようにした。

3 将来計画

62年度は、レーザーディスクによるビデオ画面を使用した現場機器等の教育を計画している。

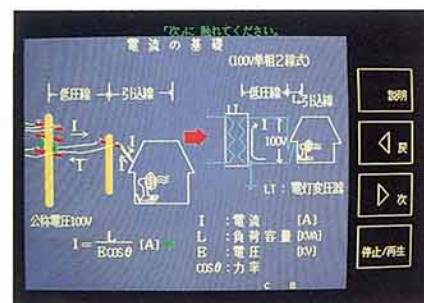
4 あとがき

このシステムは、営業所などの青年層・新任者の勉強会において、OJTの補佐手段として活用している。

(配電部 配電計画課)



第1図 機器構成



第2図 教材の画面例